

どうもごさいます あいつ



伊賀市長

今岡 睦之

新年明けましておめでとうございませう。市民の皆様には、日頃から市政に対して深いご理解と温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、国の行政システムがこれまでの中央集権から地方分権への転換期にあつて、行財政基盤の拡充などを受け、伊賀市が誕生して1年2カ月が経過しました。この間、三重県内においても市町村合併が進められ、昨年1月に15市29町7村であつたものが、今月末には14市15町になる見込みで、自立能力のある足腰の強い自治体が求められる状況にあります。

市では、この1年間、住民の皆様が伊賀市民として一体感を持つていただくことを最重要課題として取り組んで参りました。37地区での懇談会、市民へのサービスや負担の平準化などを図り、また、大幅な人事異動などを行うなどして市職員の意識改革に努めてきたところであります。

昨年は、総合計画をはじめ、防災計画、

福祉計画、地域活性化計画など市の将来を決定付ける各種行政計画策定に着手した「伊賀市元年」と位置付けられる年でありました。これら各種計画につきましても、市の最高規範である伊賀市自治基本条例に基づき、パブリックコメントを実施するなど広く市民の皆様にご意見をお聞きして、策定に向けた議論をいただいております。

また、画一から個性、そして、分権型のまちづくりを目指した住民自治協議会の設置に努めてきましたが、本年からは、住民自治協議会が所期の目的を達成いただくための支援などに力を入れて参る考えであります。

先人から受け継いでまいりました自然や歴史文化を活かしながら、市民の皆様のご目線に立って、輝く伊賀市創造に取り組み、決意を新たにいたしておりますので、変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。また、新年のごあいさついたします。



あけましておめでとう 新年のご



伊賀市議会議長

小丸 勅司

新年明けましておめでとうでございます。輝かしい平成18年元旦をご家族ご壮健でお迎えいただき、まことに慶賀に存じます。昨年を振り返りますと、国外においてはイラク紛争をはじめ北朝鮮の核と拉致問題、米国BSE、中国民主化、ロシア北方領土問題など厳しい情勢の中で、世界における日本の役割として真価を問われる激動の一年でございました。また、風水害や巨大地震により十数万人が一瞬のうちに帰らぬ人となるなど、自然災害の猛威を改めて考えさせられる年でもあり、まことに痛ましく心からお見舞い申し上げます。

一方、国内にありましては、商道徳が欠落し、金融業界や商取引においても誠に遺憾な事態を招き、さらに多面的な格差拡大により、不公平感が増殖しているのも事実でございます。また、幼児誘拐殺害事件や青少年の犯罪状況を見るにつけ、社会モラルの低下と人心の荒廃を感じざるを得ません。私たち大人の義務と責任を痛感しながら、さらなるモラルの涵養に努力しなければなりません。

さて、小泉改革の柱である「三位一体改革」の中で一定の決着を見たものの、真の地方分権改革である「第2期改革」に向かって「地方の改革案」、すなわち地方自治裁量権の拡大など引き続き要望を進めてまいりたいと考えております。

伊賀市におきましては合併後、はや一年が経過しましたが、行財政の確立、少子高齢化対策、人権問題、インフラ整備、環境問題、新市の早期一体化等、諸施策の推進に当たらなければならぬと強く認識いたしているところでございます。いよいよ「伊賀市総合計画」をはじめ各種計画が策定され、新市の進路が定まっております。議会といたしましては、これら計画が市民の目線に適っているか、公平性が担保されているかを検証しながら皆様の期待に添うべく努めてまいりる覚悟であります。どうぞ本年も格別のご支援、ご理解を賜りますようお願いいたします。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。年頭に当たったつのごあいさついたします。